

仁平 凜 さん

健康・スポーツ教育課程 スポーツ科学コース
島根県（養護教諭）内定
京都外大西高等学校出身



■ 学校種を目指したきっかけ

養護教諭を目指したきっかけは、教育実習で現場の養護教諭と出会ったことです。

3年次の秋、小学校での実習を経験した際、当時は企業への就職も考えていましたが、子どもや教員の心身の健康と向き合う養護教諭の姿に触れ、あらためて子どもの未来を支える仕事の素晴らしさを実感し、半年後の採用試験を受ける決意をしました。

■ 大学での学び・教育実習での経験

大学では、現場見学やインターンなどを通して学校現場で学ぶ機会が豊富にありました。特に教育実習の4週間は大きな経験となりました。実習中、何気ない声かけで児童を傷つけてしまったこともあり、子ども一人ひとりの状況や心の状態に配慮した発言の大切さを学びました。また、教員の言葉の重みや責任を実感し、日々の関わり方や接し方を意識するようになりました。

■ 採用試験でのアピールポイント

面接では「誠実さ」と「ハツラツとした自分らしさ」をアピールしました。話を盛ったり、嘘をついたりすることに苦手意識があったので、言い回しに気を付けつつ、聞かれたことに誠実に答えることを心がけました。また、「面接を受ける」というより「会話を楽しむ」ことを意識し、自分らしい間合いやリアクションで話すようにしました。

■ 教職センターでのサポート

教職センターでは、面接練習や小論文添削を中心に指導を受けました。面接では入室の仕方や個人面接の内容、場面指導まで幅広くサポートしていただきました。特に教育問題については、否定表現を避け、前向きな表現にするよう指導を受けました。

小論文では、文章構成や内容を丁寧に添削していただき、短期間で仕上げる必要がある中でも、何度も指導していただきました。この支えがあったことで自信を持って試験に臨むことができました。

■ 目指す教員像

誰もが安心して相談できる養護教諭になりたいと考えています。養護教諭は、基本的に学校に1人しか配置されない専門職です。そのため、日々の業務に追われてしまう場面もあるかもしれません。しかし、子どもたちから見て「保健室の先生って暇そう」と思われるぐらいが、いちばん話しかけやすいのかな、と思っています。

まずは自分自身の心と身体に健康に気を配り、日常生活から余裕を持つことを大切にしたいです。そうすることで、子どもたちが安心して相談できる存在に近づけると考えています。

■ 後輩へのメッセージ

これから教員採用試験を目指すみなさん、受験するかをまだ迷っているみなさんへ。

1・2年次生のみなさん

まずは授業をしっかり受けつつ、たくさん遊び、アルバイトやボランティアにも挑戦して、さまざまな経験を積むことを大切にしてください。1・2年次生で学ぶ内容は、採用試験で頻出のテーマが多く含まれています。授業の復習を丁寧に行い、日々の授業や課題に真剣に向き合うことが、そのまま採用試験対策につながります。

また、面接会場は想像以上に緊張感があります。本番で自信をもって話すためにも、学生生活の中で深い経験を増やしておくことが大きな力になります。

3年次生のみなさん

ここからが本番です。筆記試験は暗記が中心になるため、まずは過去問に触れ、解けないところはインプットから始めましょう。インプットとアウトプットを繰り返すことで、確実に力が付いていきます。

面接試験では、教育実習での経験が大きな強みになります。日頃から子どもたちと積極的にかかわり、自分の学びとして蓄えておきましょう。

私は長期戦でも気持ちが折れないよう、同じ目標を持つ仲間と同じ空間で勉強し、モチベーションを維持していました。とてもおすすめです。また、勉強すること自体が目的になってしまわないよう、十分な睡眠をとりながら無理のないペースで進めてください。

受験するか迷っているみなさんへ

私自身、受験を決めたのは一次試験の約半年前でした。それから勉強を始めましたが、自分に合った勉強方法と「なりたい」という気持ちがあれば間に合います。悔いのないよう、半年前をひとつの目安に、自分の将来についてじっくり迷い、考え、決断してみてください。

みなさん、心から応援しています。がんばってください！